

ザリガニつりできたよ

5歳児

目的 身近な自然の中にいる生き物とかかわる中で、命の大切さに気づき命を守ろうとする気持ちを高める。

園外活動を通して地域の人とふれあい、多くの体験活動を経験する。

気づく

「ザリガニってどこにいるの？」

自然の中での体験が少ない幼児が生き生きと活動できるように、園近くの身近な自然環境を生かした保育の機会を計画する。

友だちが見つけてきたザリガニを見る。
絵本「ざりがにのおうさままっかちん」(福音館書店)を見てザリガニがつれることに興味を持たせることもできる。

「ザリガニってちくわが好きなんだって。」
「かくれるのが得意なんだよ。」

広げる・深める

ザリガニつりの準備をしよう

ザリガニに対する関心や興味を高め、「自分もつってみたい」という気持ちを高める。
「ザリガニ」の絵本を見たり図鑑を見たりする中で、ザリガニの生態を知る。
自分のつりざおを作る。
「畑の横を流れる川でザリガニつりをさせてほしい」と畑の持ち主へお願いの手紙を書く。

ザリガニを捕まえたいという意欲を大切にし、地域の人との出会いやものとのふれあいの場面も取り入れる。
地域の人や保護者との出会いを感謝の気持ちで素直に表せるようにする。

実践する 1

ザリガニをつってみよう

つれない幼児や困っている幼児には、上手な幼児がつり方を教える。
身近な自然環境の良さを知ったり、友だちの新たな一面に気づく。
つったザリガニを実際に触ってみる。
地域の人や保護者のお話を聞く。

「Bちゃんすごいなあ。ザリガニつりの名人やなあ。」

園の中では見られない力を発揮する幼児たちの活動を認め評価する。

「ぼくにもザリガニつりができたよ。」



実践する 2

ザリガニを飼ってみよう

見つけてきたザリガニは命あるものとして大切に世話をする。自然に近い住みやすい環境を作り、えさを与える。
ザリガニを飼ってみてうれしかったことや見つけたことを伝えあう。

「ザリガニを飼おう。」
「おうちもつくってあげようよ。」

つかんできたザリガニを大きさや数に応じて分け、みんなで飼育する。ザリガニには、それぞれ名前を付ける。

滋賀県幼児教育推進の指針 (P10) 参照

振り返る

ザリガニにとってどうすることが一番いいのか考えよう

夏休みを前にザリガニをどうするかを幼児と話し合う。ザリガニにとって、どうすることが一番いいのかを考える。
ザリガニをつかんだり一緒に遊んだりしたことを絵に描き、ザリガニへの思いを表現する。

「ザリガニを逃がすのはいや。」
「ザリガニを持って帰る。」

ザリガニつりでお世話になった方へお礼の気持ちを手紙に書き、ザリガニの絵を添えて感謝の気持ちを伝える。



「逃がしてあげる。」
「もう一度川へ逃がそう。」

【学習を進めるにあたって】

- ・地域の人と一過性のかかわりではなく、継続したかかわりができるようにする。

